

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度 第1回 枚方市文化芸術振興審議会
開 催 日 時	令和8年1月15日（木曜日） 午後1時30分から 午後4時00分まで
開 催 場 所	枚方市役所 別館4階 第3委員会室
出 席 者	委員10名中9名出席 会長：林 伸光委員、副会長：佐藤 友美子委員 委員：太田 奈緒子委員、小川 知子委員、阪本 龍夫委員、佐藤 亜友美委員、 田中 恵美委員、所 めぐみ委員、吉富 聡委員
欠 席 者	谷本 雅洋委員
案 件 名	1. 案件 (1) 令和6年度における枚方市文化芸術振興計画【改訂版】の進捗状況について 2. その他
提出された資料等の 名 称	・資料1 枚方市文化芸術振興計画【改訂版】の進捗状況〔令和6年度分 総括〕 ・参考資料① 枚方市文化芸術振興条例 ・参考資料② 枚方市文化芸術振興計画【改訂版】（令和6年3月） ・参考資料③ 枚方市の文化芸術振興にかかる検討経過
決 定 事 項	枚方市文化芸術振興計画【改訂版】の進捗状況を確認した
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	なし
所 管 部 署 (事 務 局)	観光にぎわい部 文化生涯学習課

審 議 内 容

1. 開会

会 長:定刻になりましたので、ただいまより、令和7年度第1回枚方市文化芸術振興審議会を始めさせていただきます。本日の審議会を進めていくに際して、会議の公開のルールや会議録の対応などについては、従来どおり、「本審議会の傍聴について、原則として認めるものとし、会議録は、要点筆記を作成し公表」とさせていただきたいと考えております。よろしくお祈いします。

それでは、本日の審議会の出席委員と傍聴者についての報告と、資料の確認を事務局からお願いいたします。

事務局:委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の出席委員でございますが、10名中9名の出席をいただいております。枚方市附属機関条例第5条第2項に規定します「2分の1以上の出席」を満たしており、この審議会が成立していることをご報告いたします。また、本日の一般傍聴者でございますが、傍聴の受付はございませんので、合わせてご報告いたします。

続きまして、本日配付させていただいております資料の確認をさせていただきます。次第、資料1及び参考資料①～③の以上5点でございます。資料に過不足等はございませんでしょうか。

(資料の不足等なし)

2. 案件

会 長:それでは「案件(1)令和6年度における枚方市文化芸術振興計画【改訂版】の進捗状況について」事務局からご説明をお願いします。

事務局:(案件(1)「令和6年度における枚方市文化芸術振興計画【改訂版】の進捗状況について」の施策の柱Iを説明)

会 長:事務局から「施策の柱I」について説明がありましたが、何かご質問やご意見はありませんか。

会 長:資料1は、副会長のご意見を反映されて見やすくなりましたね。主な取り組みにそれぞれカラーの写真が載っていて、これだけでイメージが湧くので良いですね。

私から意見を申し上げますと、3ページ1番目の総合文化芸術センターの来館者数が42万9000人とありますが、これは驚くべき数字です。入場者ではなく来館者なので、センターに来た人の数ということになります。美術ギャラリーに来た人や出演者、チケット購入者など、全体の数ではありますが、兵庫県立芸術文化センターは、大ホール2,000席、中ホール800席、小ホール400席の規模で、来館者数で70万人～80万人、入場者で50万人を超えています。枚方の来館者数42万9000人というのは、劇場や街の規模からしても、すごい数字だと思います。

兵庫県立芸術文化センターにない部分としては、枚方には美術ギャラリーがあるということです。演奏会に来られた方も美術ギャラリーに寄れる。美術ギャラリーが独立していると、なかなか別の場所まで行かれないから、来館者数も多くなっているのではと思います。

もう1つ、大阪フィルの中学生のオーケストラ鑑賞会です。これも全国的にはなかなか難しい事業で、継続できているところは少ないです。兵庫県立芸術文化センターではオーケストラと一緒に立ち上げたので、開館時から継続して実施しており、札幌市でもずっと札幌交響楽団で続いているようですが、今まで実施していたけれど、やめてしまったところも結構ありますので、中学校オーケストラ鑑賞会はぜひ続けていただきたい。

総合文化芸術センターは来年度開館5周年です。1年、2年、3年、5年というのではなく、兵庫も20年続けると、今は新成人から30歳に近い年代まで、みな様に一度は劇場で芸術に触れているので、その積み上げはとても大きいです。今の大学生と話していても、「鑑賞会で劇場に行ったよ」と言ってくれる人が結構多い。この鑑賞会が中学1年生の時期の思い出として、結構残っているようですので、ぜひ続けていただきたいと思います。

会 長：他に、いかがでしょうか。またお気づきのことがありましたら、後でご意見いただくとして、それでは「施策の柱Ⅱ」について事務局から説明をお願いします。

事務局：(令和6年度における枚方市文化芸術振興計画【改訂版】の進捗状況について「施策の柱Ⅱ」を説明)

会 長：ありがとうございます。ただいま事務局よりご説明がありました「施策の柱Ⅱ」について、ご質問やご意見はありませんか。

委 員：ほとんどが「継続推進」となっていますが、少し気になった部分が2つあります。8ページ6番目の「初級人形劇講座」の参加者が4名と非常に少ない。人数を増やすための改善の余地がないのかということが一つ。もう一つは11ページ2番目の「アーティストバンク」のマッチング件数が3件と少ない。これも「継続推進」となっていますが、改善の余地はないのでしょうか。

事務局：ありがとうございます。「初級人形劇講座」は、人形劇を本格的に自分たちで始めたい、という方を対象にした生涯学習市民センターで実施しているワークショップです。プロの劇団員を講師に、1つの演目を、人形作りから始め、発表まで作り上げていくという連続14回の講座です。若手育成のために講座を始めましたが、長期間にわたる連続講座に対して最後まで参加できる方がとても限られているという昨今の状況もあり、課題として認識しています。

「アーティストバンク」のマッチングについてですが、アーティストバンクに登録しているアーティストの方々へは、総合文化芸術センターのワンコインコンサートや各小学校へのアウトリーチ活動をメインに行ってもらっています。民間の団体の方ともつながって活動の機会を提供しようとマッチングをしていますが、昨年マッチングできた件数は3件でした。これは市でもPRしていくよう進めていきます。

会 長：前例をつくっていかないと広がりにくいですね。

事務局：小学校のアウトリーチを年25校ほど、総合文化芸術センターでのワンコインコンサートは年2回開催していますが、どちらかといえば今はこの2つがメインの活動になっています。ただ、幅広く活動していただきたいとも考えています。

会 長：営業していくのは市の役割ですね。アーティストにとっては、幅広く活動することがとても励みになると思います。いわゆるオルタナティブスペース、本来の演奏場所ではないところで活動することで広がっていくので、ぜひ努力をしてみてください。

委 員：アーティストバンクには、東京藝術大学首席卒業など優秀な方が登録されていますが、アーティストが自主的にバンクに入られているのでしょうか。市がスカウティングをしているのでしょうか。

事務局：ほぼ自主的です。

委 員：バンクに登録されているアーティスト同士のコミュニティみたいなものを、市がマネジメントしてみたいかがでしょう。アーティストはそれぞれ活動分野も違うと思いますが、仲間がいることで活動しやすくなることもあると思います。

委 員：ピンポイントな活動はどうしても認知が低いので、民間のBtoB的なところに指定管理者の方に頑張ってもらいながら広げるというやり方もあるのではないのでしょうか。

事務局：民間へのアプローチは課題であると認識しています。アーティストバンクの活動を認識していただいた上で登録を希望してくださっています。いい形になってきていますので、さらに活用できるよう、市として頑張りたいと思います。

会 長：ほかの委員はいかがでしょう。

委 員：アーティストの名前や楽器だけを掲載するのではなく、映像で実際の音楽を届けられれば、民間企業に上手に紹介・発信できるのではないかと思います。

委 員：イベントの企画・運営をしているイベンターの方にバンクの存在を知ってもらえればよいと思います。枚方市がアーティストとの仲介をしている、ホームページがあるというのをイベンターが認知すれば、活躍の機会も増えていくのではと思いますので、市からイベンターへの営業があってもよいのではと思いました。

会 長：ありがとうございます。

委 員：芸術というものは、触れてみないと分からないものです。高校生だけではなく、若い世代はテレビはあまり見ません。TikTok や YouTube を充実させることは、市としては難しいですか。

事務局：コロナ禍で劇場に行けなかったとき、アーティストバンクの方の演奏を録画して YouTube でアップして紹介させていただいたことはありました。

基本的には総合文化芸術センターや生涯学習市民センターに来ていただいて、生の音楽を聴いて感動を味わっていただきたいということを念頭にアウトリーチや中学校のオーケストラ鑑賞会をしています。強制的にと言いますか、小学校では必ずアーティストバンクの方の演奏やダンスを見て

もらい、中学1年生には必ずオーケストラの演奏を聴いてもらうという活動を大切にしております。

映像的なこととなると、撮影をして編集してアップしていくという作業の部分に、市として課題があると感じております。

委員：選挙も SNS でものすごく影響を受ける時代です。危険性を含む部分はありますし、本物はやはり生だとは思いますが、まず興味を持ってもらう手段として、活用してはいかがでしょうか。

会長：ありがとうございます。それでは「施策の柱Ⅲ」について事務局から説明をお願いします。

事務局：（令和6年度における枚方市文化芸術振興計画【改訂版】の進捗状況について「施策の柱Ⅲ」を説明）

会長：ありがとうございます。ただいま事務局よりご説明がありました「施策の柱Ⅲ」について、ご質問やご意見はありませんか。

委員：人材の育成にとっても力を入れているように感じました。様々な研修を企画したり、芸術振興の裏方を支える人材を育成したりされていますが、今年5年目を迎えるにあたり、実際にそういう方々が育っていったり仕事として結びついたりしているということはあるのでしょうか。

事務局：先日、総合文化芸術センターが主催のマスタークラスに、音大に進まれた枚方ジュニア・ウインド・オーケストラの卒団生が参加されていました。芽は育んでいっているところですが、後追い調査まではできていない状況です。舞台技術者の育成も市としては非常に大切だと考え取り組んでいますが、舞台技術者に対して今どのように活躍されているかということまでは追えていません。

委員：アートマネジメントの人材育成に力を入れられているということなので、表舞台を支える重要な部分ですので、いずれ枚方の地元の方がそういうところで関わられたらいいのかなと思いました。

事務局：ありがとうございます。

委員：高校演劇で総合文化芸術センターを使わせてもらうようになりましたが、高校時代に照明などを実際のホールで経験して、大学で専門的に舞台照明などを学んでいる学生や、将来は舞台スタッフの道に進みたいという卒業生は、枚方の子でもスタッフ・役者も含めてたくさんいます。

事務局：以前は、高校演劇D地区の会場は南部生涯学習市民センターでしたので、約20年前の設備を使っていたのですが、今は総合文化芸術センターで最新の設備を実際に使いながら勉強してもらっています。モチベーションにつながればと思っておりますので、機会の充実にも努めてまいります。

委員：12ページの枚方市駅周辺地域のまちづくりの活性化の部分で、5年たって店舗数が13軒というのは少ないように思いますが、なにかネックになっていることがあるのでしょうか。これからの展望を

教えていただけますか。

事務局：総合文化芸術センターでは、提携したお店で鑑賞チケットを提示すれば飲み物が1杯無料になったり何パーセントか割り引きになるサービスをさせていただいております。新しく枚方モールができてから、実はこの13軒から現在は5店舗増えています。枚方モールに営業に行ったときは各店舗の方が新規オープニングで忙しくされており、なかなか話自体がうまくできないこともありました。継続してアプローチをかけていくつもりです。

委員：そうですね。演劇を観たり音楽を聴いたりした後、やっぱりみんなで話したいという気持ちは絶対にあるので、市民ニーズも必ずあると思います。それをうまく受け止めていただくお店が増えたらいいなと思いますので、よろしくお願いします。

会長：総合文化芸術センターの応援団になってもらえるようなお店があればよいですね。店主にもよりますが、兵庫県立芸術文化センターの近くでも、すごく応援してくれているお店はトイレの中にチラシを貼ってくれている。

委員：OSKも劇場の周りの喫茶店などは、みんなチラシを貼っています。そうやって街全体で盛り上げていく感じができると、にぎやかになっていいですね。

会長：特定のイベントに紐づけるのもいいです。兵庫県立芸術文化センターではオペラという特色があります。今年はカルメンをしますが、その1か月間は街の飲食店もスペイン一色になってパエリアなどを提供するなど、お店が工夫して何か一品付けてくれます。そこまではなかなか難しいですが、お店に行ったら10%引きです、くらいのことはなかなかモチベーションは動きません。面白がっていけるような環境が生まれてくれば、面白いなと思います。

委員：私は今回、大阪関西万博に関りましたので、民間的なデジタルの話とノベルティ・お土産の話を少しお話しします。私は落合陽一館にプロマネとして関わっていましたがデジタルに関しては、年齢の問題はゼロではありませんでした。中高年のご夫婦が今回多く来場されていましたが、デジタルを活用し、チャレンジして来てくれていました。3DスキャンやAIも最先端を取り込んでいますので、できないことに対する不満は出ますが、やはり楽しむために、デジタルに対応して入場してくれました。それから、バーチャルエキスポを仕掛けましたので万博に来られない人や行けなかった人でも、何らかの体験ができるという仕掛けも作りました。

万博の評価は何で行ったかという、来場者数も大事ですが、それよりもSNSのアクセス数で評価をしました。一番評価、アクセス数が多かったのは、大屋根リングで、その次に落合館やイタリア館、日本館が入ってきたりしていました。常にこのアクセス数をマーケットとして取っていました。

先ほど話にもありましたが、時代的には確実にデジタル推進に進んでいて国自体が進めているところでは、若い人たちは特にデジタルです。高齢の方からクレームは出ますが、そこも丁寧に対応できれば、あらゆる可能性は広がります。枚方のみならず、グローバル発信に変わっていきますので、今すぐではないけれども、時代を追っていかなければいけません。人口が減っていく中で、そこは今からやっていかないと間に合わないと思います。

それからもう一つ、開幕前は私たちもミyakミyakがあんなに売れるとは思っていませんでした。開幕したら、結果として、ミyakミyakで運営費が賄えたというくらいです。やはり文化芸術という意味では、絵やグラフィックデザイン、デジタルアートみたいなものに取り組むという要素の中で、ノベルティグッズみたいなものも育成していく必要があると思います。枚方モールにも

「Syuku56」がありますが、観光案内所とも連携されて、ノベルティを売ったりすれば、ホールへの愛着が増してくる。おしゃれなカバンがあって、おしゃれでないといけません、ホールのキャラクターみたいなものが売っている、という感じになると愛着度は増します。行政の中の連携もとても重要だと思います。指定管理者さんは民間でバリバリされているノウハウをお持ちですので、連携してやっていければいいのではと思います。

今回の大阪関西万博は、リピート客がとても多かったです。ご夫婦含め年配の方のリピート率がすごい、子どもたちもすごかったです。体験をするという意味では、先ほどおっしゃっていたとおりデジタル感がある方がリアルですが、デジタル感とリアル感とを合わせて体験することがとても重要になっているなと感じます。

事務局：デジタルについては、避けては通れません。課題という形であげてはいますが、指定管理者とも連携して進めていけたらいいなと思っています。

委員：会長がおっしゃったように、来る来ないは別にしても、いかにファンを作るのが大事です。ファンができれば、結果としてチャンスがあり、マッチングすれば来場につながるの、ファンづくりが大事です。

事務局：総合文化芸術センターは来年度5周年ですので、なにか仕掛けを作れないか検討します。ありがとうございます。

委員：先ほどの大阪関西万博の話の続きですが、私も通期パスで22回行った、ハマった多くの人のうちの1人です。デジタルやSNSの活用の話にもつながりますが、まさにXがとても活躍しました。チケットの買い方やパビリオンの情報など、情報収集はおそらくみんなThreadsやXを使っています。情報の拡散という意味では、Xはすごいです。

先ほど調べていたら、総合文化芸術センターのXフォロワーが1400人ほどです。おそらく市のLINEは約10万人。もちろん市なのでLINEの利用者が多いのはわかりませんが、せっかく民間の指定管理者に委託しているのであれば、Xの活用を民間の知恵でもっと膨らませられるのではと思います。

また先ほどおっしゃっていた落合館「null」のように、Xでとてもバズり、そこから落合さんのキャラクターができたり保管をどうしようというクラウドファンディングの話であったり、爆発力がすごいです。アイデア次第で本当にすごいことになるツールだと思いますので、Xにもう少し注力されるといいのではないのでしょうか。

キャラクターの話でも、「くらわんこ」や「ひらにゃんこ」はボールペンやバッグなどが先ほどの話にも出た観光案内所で売られています。皆さんお土産グッズとして買って行かれます。愛着という意味でもキャラクターには可能性がありますし、XやInstagramをつながげながらPRするにはうってつけではないのでしょうか。枚方市以外から来てくださる方がとても増えると思います。万博もそうでしたが、「ナウルくん」がとても流行ってその後、他の市などと連携したりしていますが、愛

着がわくキャラクターとデジタルの拡散ツールが、今とても熱いと思います。「こみやく」も話題になっていますので、枚方市にも手を挙げてもらって注目を集めてもらいたいです。大阪はエキスポがあったので、そこを利用するのはチャンスだと思います。以上です。

会 長：ありがとうございます。それでは、案件（1）令和6年度における枚方市文化芸術振興計画【改訂版】の進捗状況に対しての質疑に関しては終了させていただきます。

審議会につきましては、2期にわたって委員をしていただきましたが今回で終了ということになりますので、まとめ的な感想やご意見をいただければと思います。お願いします。

委 員：小学校では毎年、合同音楽会で総合文化芸術センターの大ホールを使わせていただいている、子どもたちにとって、とても貴重な体験をさせていただいております。ありがとうございます。アウトリーチも、とても活発に活用させていただいています。先ほども芸術は本物に触れて、という話がありましたが、子どもたちはやはり本物に触れるとすごく目を輝かせて、いい体験をさせていただいています。今日はこの会議に参加させていただいて、これほど枚方市がこういった人材を確保して、力を入れて文化を進めていただいている、芸術を進めていただいていることを改めて確認したので、小学校として協力できることはしていきたいなと思っております。いつもありがとうございます。

会 長：ありがとうございます。次の方、お願いします。

委 員：資料1の最初の1ページのアンケート結果を見ておきますと、令和5年度から令和6年度で市民の皆様が文化芸術に親しむ環境が整っているという回答が増えているという結果になっております。とてもいいことですけれども、若い方、24歳以下の方については、あまり触れていない人が多いのかなと、少し気がりもあります。これだけたくさんの事業をされているのに、やはりまだまだ本当に手を緩められないというか、ずっと向上を目指しながらやっていかないと浸透しないという現実もあります。本当にいいホール、施設ができたので、それは市民の皆様のプライドにもつながっていると思いますし、これからも本当に良い展示、良いイベントをしていってもらえたらと思います。

会 長：ありがとうございます。次の方、お願いします。

委 員：私は昨年3月に現場を離れ、今はいろんなことをしていますが、つい最近豊中市立文化芸術センターに、夏は先ほど出ていました大阪関西万博の方に、週末はずっと関わっていました。先ほど話したことにも関わりますが、デジタルの活用は若い人が長けています。もっと活用して膨らませていくことで、舞台だけでなく展示系の芸術などすべてが変わってくると思います。また、豊中市立文化芸術センターと比べると、枚方は立地面でとても恵まれています。スペースも広いですし、淀川の開放感もある。芝生広場もあるので、そのスペースで周りの店舗に出店してもらうなど、協力して全体を高め合う努力をしていけばさらにいいと思います。演劇はマイナーですが、やはり本物を観ないと分からない。市民総合文化祭もされていますが、中学校の演劇部も少なくなっていますし、中学や高校の演劇祭にプロの大人が関わるような仕掛けをしていただくなど、行政に助けてもらえるとありがたいと思います。若い世代の方は、我々の経験していないことをしている人が多いので、古い頭、古い事柄から視点

を変えて頑張ってくださいたいと思います。

会 長：ありがとうございます。次の方、お願いします。

委 員：私はアーティストとして小学校へアウトリーチに行かせていただいています。生の演奏を届けると、子どもたちは本当に目をキラキラさせながらこの楽器はこんな音色なんだ、と熱意がとても伝わってきます。先ほどと重なりますが、やはり映像として発信することができれば枚方市が力を入れているPRにもなります。自分たちのコンサート情報をInstagramにも載せていますが、一番申し込みが多いのはInstagramを見てきてくれる方です。チラシも作りますが、InstagramやXが多いので、やはり力を入れていただければと思います。アウトリーチも毎回は大変だと思いますが、録画・編集してもらって、素晴らしい演奏・パフォーマンスをしているということをもう少しPRできるとさらに素晴らしいと思います。

今週末に枚方モール5階の生涯学習交流センターで0歳から入れる親子クラシックコンサートをさせていただきます。0歳から音楽に触れられて、小学校でアウトリーチ、中学校でオーケストラの鑑賞をして、大きくなるにつれて様々な経験をして、子どもたちが音楽・文化に触れて興味を持ってくれたらいいなと思います。そして、アーティストとして、5周年コンサート出演の連絡をいただきました。アーティストとしての横のつながりもできますし、事業者へのアプローチもできると思います。アーティストバンクの活用PRもしていただけると嬉しいです。

4年間任期を務めさせていただき、枚方市の文化にとっても触れることができました。枚方市の文化がさらに発展することを願っています。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

会 長：ありがとうございます。次の方、お願いします。

委 員：私も2期、4年間携わらせていただき、枚方市がこれほど文化芸術に力を入れているということ、今回初めて知ったこともたくさんありましたので、市民として参加させていただけてよかったなと思います。

一つは、親の目線で言いますと、小学校では総合文化芸術センターで合同音楽会があり、聴きに行きましたが、新しいあのキラッとしたホールで学校の行事で歌っている子どもの姿を観られたのはとてもうれしかったですし、中学生になって本格的な音楽を体験できるというのも、とてもありがたいと思います。

もう一つは、事業者として言いますと、私は枚方市で事業をしています。先ほど話にあった協力店舗13店舗、今は5店舗増えたという連携の話も、私の店舗は徒歩10分くらい離れてはいますが、そういった情報自体が入ってきていません。おそらく、協力店舗を求めていることを知れば、積極的にやってみたいという店舗の方もいらっしゃると思います。アートに興味がある飲食店の方や音楽が好きな飲食店の方など、個人事業主の方は割と多いと思います。1軒1軒営業に回るのは大変だと思いますので、例えば先ほどのLINEなど何か知ることができる機会があれば、街全体で盛り上がる参加型のようなものではないかと思いました。

それから、大阪関西万博はあれ自体がアートだと思います。建築、各国の展示ももちろん、文化や絵画、芸術、音楽が全部含まれていたあの刺激が大阪にはまだ残っています。むしろ万博ロスでさみしい気持ちもある。ビオルネでポルトガル館のロープを展示されていましたが、それもいいですが、こみゃくのプロジェクションマッピングやワークショップなどの芸術体験が枚方市に行ったら

見られる、できるというアフター万博みたいなものがあれば楽しいと思います。芸術に力を入れているというPRポイントと立派なホールがありますので。

4年間さまざまな意見を聞かせていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。

会 長：ありがとうございます。次の方、お願いします。

委 員：私も先ほどもご指摘がありました、1ページ目のアンケート結果がとても印象的に思っていました。全体として文化芸術に親しめる環境が整っていると答えられた市民の方の割合が増えた。それも1年で結構増えている。先ほどご指摘があったように、24歳以下はもう少し伸びるといいかもしれませんが、全体としてはとても評価され認識された、きちんと受け止めた方がいいと思いました。一方で、今日の全体の成果とご報告を改めて伺っていた際、もっと知ってもらえてもいいのではないかとのも正直、思いました。特に、取り組みの柱Ⅲは、どのように広報していくかというところですが、先ほどから各委員からもご意見が出ているように、SNS等の活用がもっとできると思いますし、行政だけでなく、それぞれが発信していることがうまくつながっていけば、思っているほどのエネルギーを注ぎ込まずにできる方法があるのではと思いました。一方で、やはり「より分かりやすく」という部分は大事です。比較的多くの方に分かりやすさを伝えられるというのは、媒体が1つだけではない、方法が1個だけではなく、色々並べられると掴みやすくなると思いました。例えば、今日の資料1にも、チラシや写真を加えられたことによって随分分かりやすくなり、文字だけの情報ではなくなった。本当は事務局の皆さんは、もっとたくさん取り組みについて書きたいだろうと思いますが、分かりやすくするためかなり圧縮して絞った情報であることで、よりポイントを見せることができます。でも、やはりそれによって減ってしまう情報もあります。これをどのように補うか、一見したところには載っていませんが、ここにつなげればもっと詳しく見られるよ、そういうことは紙ではないものの方が今は多く使えますので、どんどんできるのではと思います。その際に、先ほどのアーティストバンクでも、確かに登録された方たちの情報はありますが、使う側からするとその情報だけではなく、やってみてどうだったかということを知りたいのではと思います。今は、申請する段階で第1志望、第2志望と書かなくてはけません。できれば、申請前に一度相談できる、さらに相談できることがより分かりやすく案内されると、利用にもつながるのではと思います。それから、先ほど何回もおっしゃられていましたが、やはり文字だけ、写真だけではなく、少し映像などがあると随分イメージが持てると思います。もちろん文字情報も大事で、例えばさっきはその申請する側と言いましたが、では実際にそこに参加してくれた人たちの声がどうだったかも、全部出さなくても、良いところだけでもいいと思います、実際に来られた人からこんな声が上がっていましたなど、そのような情報があると、つながりやすいのかなと思いました。私は、関西大学の人間健康学部で教員をしています。関西大学は吹田にあります、福祉の学部は実は堺にありまして、地域連携事業ということで、堺市だけではなく地域の団体の方たちとも様々なことに取り組んでいます。例えば、アーティストバンクに登録されている方々が、地域の子どもの食堂などの活動にとっても関わっています。私も、大学でいろんな方たちと取り組みをする際に、堺市のアーツカウンシルに相談をして、障害のある方たちや、この2年ほどは罪に問われた方たちが地域で生き直しをしていく中で、アートの力がとても生かされている、あるいは生かしてほしいという部分があるというのを、関係者の方たちと色々な取り組みをして、作品展を一緒にしたり、何かを一緒につくったりするという経験など、そのような活動にもつながっています。これらの取り組みがなぜできるのかというと、やはり事前に相談に行ける、そして、アイデアをいただいたり具体的にどんなこと

ができそうかということも教えてもらえる。私たちも初めは、アートのことは全然分かりませんでした。地域福祉やまちづくり分野では、実はアートというのはとても重要な側面があります。様々な関係者の方とつながっていく、そういうところも、行政や、あるいは行政がそのアートを通じて関係者に紹介していただくなど、そんなことでもいいんじゃないかなど。気軽に相談できる、よき相談者にもなってもらいたい。いきなりコーディネートまでいかななくてもいいんです。こんなに素晴らしいことをしているので、もっと市民の皆さんに知ってもらいたいし、生かしてもらえることにつながれるようにと思います。以上です。

会 長：ありがとうございます。次の方、お願いします。

委 員：この資料ですが、以前、副会長からのご指摘のとおり改善され、とてもよくなりましたが、やはりあと1歩だと思います。これに対して市や指定管理者が成功したと思って書いてあるのか、失敗したと思って書いてあるのかが分からない。先ほどの人数の問題も含めて、人数が多い少ないというのは、一番客観的な数字ではありますが、それが数字で評価されるべきものなのかということもありますので、もう少し、この場においての主観性というのは書いてもいいのではないかと思います。そうでないと我々も委員として今後の委員になれる方も、市はどう思っているのか、指定管理者に対してどう言ったのかというのが継続の評価にも入っていくと思いますので、その辺は記載された方がよいと思います。見た目がとてもよくなったので。

もう1つは、先ほどオルタナティブの話を含めて、また連携の話をしませんが、今、枚方市駅の北側ロータリーができあがり、広場ができますよね。以前からお話ししているとおり、北側の広場、改札から出て北側広場を通過して劇場まで行く空間やサイン、オルタナティブという意味では、その広場の活用みたいなものを、これは道路課と打ち合わせなのかもしれませんし、まちづくり課か分かりませんが、それを広げていって、それにはネーミングライツパートナーである関西医大さんも含めて、北側のまちづくりで、芸術文化と医療、教育みたいなものが張り付いている中で、そこをどうまちづくりとしてつくっていくかというのは、やはり庁内でも議論していくべきです。芸術文化の視点から、この委員会を通した視点から物申しながら、先ほどのデジタルの話も、観光という視点もそうですが、そういうところは、やはり庁内連携をやっていかないとはいけません。この委員会は、芸術文化のマクロの世界に入っていくかねないので、まちづくり、ブランドという意味では、やはりまちづくりにつながる必要がありますので、北側の広場ができあがるということも含めて、今後その辺の活動域は広げるべきではないかと思います。今、南側の再開発も言われ続けている中で、どう連携していくのかというのは、庁内でも文化生涯学習課が発信していくべきです。関係ありませんというのではなく、連携していくべき内容だと思いますので、今後まだこれからなので、期待したいと思っています。

会 長：ありがとうございます。それでは、副会長お願いします。

副会長：長い間、関わっていますが、最初はバラバラだった文化芸術がだんだんとまとまりが出てきて、相互の乗り入れもあって、非常によくなってきたなど、今日話を聞いていて本当に実感しています。今もおっしゃっていたように、駅からセンターまで少し離れている。南側は以前からコミュニティになっていて様々な活動がありましたが、北側にもそれができてきました。西宮の兵庫県立芸術文化センターでは、施設前の広場で子どもたちがたくさん遊んでいます。枚方も施設前広場が有効に使われるようになれば、さらに良くなるのではと思いますので、ぜひ力を入れて取り組んで

いただきたいと思います。

それから、中学校の部活がどんどんなくなっています。これからさらに地域の人たちがそれを支えるようになっていく際に、今の枚方で取り組んでいる活動が受け皿としてきちんと機能すれば、市民にとってもとてもいいことになると思います。今、人材は結構いらっしゃると思うので、そういう方と取り組みをうまくつなげていただくとさらに良くなりますし、身近なものになっていくのではと思います。それができれば、枚方って本当に楽しいところだね、となると思います。家の近くに、バスに少し乗ったら、歩いたら、芸術文化に触れられるところがあるというのは、本当に大事なことですし貴重なことです。5年が経ちましたので、今までは一生懸命提供しました、これからは皆さんに支えられていくように、というメッセージの出し方が、センターがみんなが集まる場になってつながっていく、そのようなメッセージが必要で、これからの5年の大きなテーマなのでと思います。本当によくなってよかったと思います。ありがとうございます。

会 長：ありがとうございました。

それでは、最後に私から。兵庫県立芸術文化センターの芸術監督、指揮者の佐渡裕さんも「音楽は心のビタミン」とよく言っていますが、芸術文化というのはビタミンなんです。だから、何か一過的に世の中の仕組みを変えたり、急な社会変化を起こしたりすることはできませんが、長い時間軸で見ると、やはりすごく大きな力を発揮していくものだと思います。

今までの経緯が、参考資料③に記載されています。一般的に、20世紀的言葉ですが「ハコモノ行政」とよく言われました。バブル期に特に多かったのですが、お金があるから造ってしまえという、そうではないけれどもそうとしか見えないようなハコモノが結構多かった。そういうものはやはりそのとおり、バブルが崩壊すると自主事業をする予算が割愛され、その保守点検をする予算が割愛され、だんだん本来の目的からますます遠ざかっていくような施設が確かに多かった。私も多くの劇場を見てきましたが、残念ながらそういう施設は結構ありました。でも、枚方の場合は、そういうことが起こらないように、とても長い目線で取り組んできました。それは劇場だけではなく、芸術文化全体です。参考資料③の表を見ていただくと、もう10年以上前ですが、まずは条例をつくりました。条例というのは、一種の法律や憲法です。この街の芸術文化をどうしていこうかという、そのルールを先に敷きました。これはとても大きなことで、私もそのときから関わっていますが、ルールを敷いて、そのルールに乗って、芸術文化や新しい劇場という列車を乗せて、それをどう運ぼうかというときに、今度はその道筋を決めていくために、その条例に乗った振興計画という、より細かにその計画をつくっていかうと、市民委員の方、専門委員も含めて、その計画をどのようにしていこうかということで一緒に議論をしてきました。だから、行政だけがやるのではなく、一緒に議論して、市民委員の方やそれぞれの専門家から意見を出していただいたりして、修正しながら進んできました。そんな中で、その劇場自身が当初よりは少し計画が遅れてしまいましたが、劇場ができるまでに、劇場のイメージはこの審議会で皆さんが持つようになりました。

それから、平成30年から令和元年のあたりですが、劇場ができたらどう運営していこうかという、この枚方市文化芸術振興計画を踏まえた拠点施設の運営についての答申をしました。実際、残念な話ですが、指定管理者に行政が丸投げしてしまうようなことが結構多いんです。何のビジョンも持たずに「とにかくやってください」という感じで。指定管理者はどうしていいかわからないから行政に聞くけれど、行政もわからないから指定管理者に提案してもらいたいという。でもそうではない。枚方がどういう街で、そこで何をどう起こしていこうか、そのために劇場がどのような役割を果たさないといけないかということを、行政だけでなく我々も一緒に議論して、こういう劇場にし

ようよと考えて、それに基づいて、指定管理者が運営しているわけです。そこでまたフィードバックをしていきながら、こうして議論をして、いろんな目線から見て、やっぱりここはもう少しこうしていこうよというような、そういった進め方をしていると思います。その流れがうまくできているので、今の劇場の活性化にとっても寄与しているのではないかと思います。

やはり、枚方の街で、音楽好きの人であれば、自分の住む街に劇場ができただけでなく、大阪ナンバーワンの大阪フィルが年に2回公演に来て、いい演奏をして、しかもそれがいつも満席になっている。それはすごく夢のようなことだと思います。だから、そういうことが実現できてきたことも、それは演奏家だけでなく、それが聴ける市民の方もやはり大きなシビックプライドになっていると思います。

そのようなことで、長い時間軸の中で、条例制定から12年ぐらいになるわけですが、とても大きな流れが生まれてきている。こういう流れを絶やさないよう、これは行政だけでできるわけではなく、指定管理者だけでできるわけでもない。やはり市民と一緒に、市内の音楽家の方も一緒に、芸術家の方も一緒に、大きな連携の場がますます広がっていくような動きになっていけばいいなと思います。また、皆さん方のご協力も得なければいけないと思います。また今後とも、よろしく願いいたします。

では、事務局にお返しします。事務局から、その他事項はありますか。

事務局：ありがとうございます。

本日の議事録を事務局で作成させていただきます。各委員の皆様にもご確認いただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

会長：本日の案件は以上です。我々の任期も最後ですので、本日で終了です。長い間どうもありがとうございました。お疲れ様でした。

事務局：ありがとうございました。